

御船町恐竜博物館 年間行事

平成25年4月~11月



パレオプログラム

(※パレオ=古い)

「化石のレプリカづくり」

4月28日(日)



生命の歴史や化石に興味のある方におすすめ。自分だけの化石のレプリカや標本カードを作つてみませんか?

「水がつくるサンドアート」

5月26日(日)



水辺で見られる砂のアートを実験で再現します。また、地層に残された化石の証拠から、太古の水の動きを考えます。

「みふね恐竜探偵」

6月9日(日)/10月27日(日)



博物館で事件発生! 現場に残された化石の証拠を手がかりにして、謎を解き明かしてくれる探偵を募集します。

「古生物学者への道」

7月7日(日)



未来の古生物学者を募集します。恐竜の化石の観察やスケッチ、計測、鑑定など、実際の研究の流れを体験しませんか?

「パレオマイクロワールド」

8月18日(日)



顕微鏡の中の秘密の世界。小さくてかわいい化石たちをこっそり教えます。化石コレクションボックスを作りましょう。

「御船に眠る化石たち」

9月15日(日)



白亜紀の御船にはどのような生き物がいたのでしょうか。化石ひろばで地層の観察や化石採集をしてみませんか。

「アンモナイト徹底解剖」

11月24日(日)



アンモナイトは何の仲間? オウムガイの殻と比べたり、イカを解剖することでアンモナイトの真の姿に迫ります。

その他のイベント

夏休み! サマースクール ミュージアムキャンプ

8月1日(木)~8月2日(金)



化石採集や夜のミュージアム探検など、ドキドキ、ワクワクの2日間。夜は展示室に宿泊します。

夏休み化石教室 8月4日(日)

化石ひろばで化石を採集します。希望者には化石の鑑定会や夏休み自由研究の相談会も行います。



わくわく 体験教室

- ・紙粘土でアンモナイトをつくってみよう
- ・恐竜の貼り絵をつくってみよう
- ・恐竜キーホルダーをつくってみよう
- ・恐竜消しゴムをつくってみよう

誰でも気軽に参加できる体験教室です。予約不要。直接博物館にお越し下さい。

毎月第2・第4土曜日
10時~12時に実施!



地学セミナー

11月30日(土)

地学に関する最近の話題や、研究の成果を紹介します。(内容は大人向け)



— 参加申し込み・お問い合わせ —

 御船町恐竜博物館 TEL 096-282-4051



御船町恐竜博物館情報誌 ダイナソートピックス No.21

■発行日/平成25年3月31日
■編集・発行/御船町恐竜博物館

〒861-3207 熊本県上益城郡御船町大字御船995-3
TEL:096-282-4051 FAX:096-282-4157

E-mail:info@mifunemuseum.jp HP:<http://www.mifunemuseum.jp>

Dinosaur Topics

No.21 March 31, 2013

御船町恐竜博物館情報誌 ダイナソートピックス

No.21

2013.3.31
WWW.mifunemuseum.jp

Dinosaur Topics



特集 新恐竜博物館の設計

| 2~3p

写真で読む地球史6 「ヨーロッパの自然史博物館」

| 4~5p

モンタナ恐竜化石プレバレーションプロジェクトの経過

| 6p

平成24年度博物館の教育活動

| 7p

平成25年度の行事予定

| 8p

平成24年7月20日、御船町恐竜博物館とモンタナ州立大学附属ロッキー博物館は姉妹館提携を結びました。上の写真は調印式、下の写真はモンタナの恐竜化石のクリーニングの様子。

特集 新恐竜博物館の設計



御船町恐竜博物館は、誰にでも気軽に利用できるアットホームな施設であることを特色として、平成10年の開館からこれまでに40万人を越える利用者に親しまれてきました。しかし、近年では旧武道館を再利用した建物の老朽化や空間的な制約が問題となり、利用者の多様化する要望に応えることが難しくなってきました。そこで当館は、より充実した博物館活動を行うために、平成26年4月に新館に移転することになりました。ここでは新館設計の着目点を紹介します。



恐竜の博物館

国内に2つしかない恐竜を専門とした博物館、その1つが御船町恐竜博物館です。御船町は日本三大恐竜化石発掘地のひとつに数えられ、特に、白亜紀後期の恐竜化石に関しては国内最大の産地。当館はその御船町の“偉大な先住民（恐竜）”を紹介する窓口です。そのため新館の展示室には地元の御船層群の化石を紹介するコーナーを大きく設けます。また、新館のメインとなる展示には、西日本最大級かつユニークな恐竜展示を目指し、「恐竜進化大行進」を計画中です。ご期待ください。



学術拠点としての博物館

御船層群の上部は、白亜紀後期前半に川や湖で形成された陸成層です。同じ時代の陸成層は世界的にみても非常にめずらしいので、御船層群から発掘される化石は学術的価値が高いものとして注目されています。そこで当館は、フィールドに建つ博物館として化石の収集と調査研究を推進し、最新の成果を国内外に向けて発信できる環境を整備します。



教育や普及に力点を置いた博物館

当館は、「化石」や「地層」などを学習教材として取り入れた教育・普及活動に力を入れています。これまで当館では、化石発掘体験などの野外学習を充実させてきましたが、一方で室内における体験学習は、建物の空間的な制約から実施が困難になることもありました。新館ではその問題の解消を図り、新たに体験交流室を設けます。約40名を収容することができるので、学校のクラス単位で活用することも可能です。



地域に深く根付いた博物館

当館は交流施設としての役割を担い、地域社会の活性化に貢献することにも重点を置いています。そのため新館では、気軽に訪れることができる交流スペースを大きく確保しています。特に交流ギャラリーでは、地域を元気にする様々なプログラム（企画展など）を開催する予定です。





はじめに

化石の収集とその情報の蓄積において、博物館が果たしてきた役割は大きい。御船町恐竜博物館は、これまでにもフィールドにある博物館として、御船層群の化石の収集に貢献を続けてきた。御船層群は白亜紀後期の脊椎動物化石相の解明において、高いポテンシャルを有する地層と評価されており、この小さい博物館にも最前線での活動に期待が寄せられている。

しかし、恐竜博物館は開館から15年が経過し、施設の老朽化も進んできており、運営上の多くの課題を抱えている。財政的に厳しい状況の中で、ソフト面での充実を図りつつ、廃校施設を利用などして活動を継続してきたが、利用者の増加やニーズの多様化に応える環境が整わない状況が続いている。

前ページでも紹介されているとおり、新館整備の大方向が決まり、博物館の構想・計画・設計が進められ、新館展示のための先進地調査が計画された。その一環として、ベルギー王立自然史博物館の展示を調査する機会に恵まれたので、ここではその状況について報告したい。

ベルギー王立自然史博物館

ベルギー王立自然史博物館は、1846年にブリュッセル博物館の一部門として設置された自然史博物館である。1878年にベルニサール炭鉱で発見された約40体のイグアノドンの骨格標本を所蔵し、その実物が数多く展示されていた。

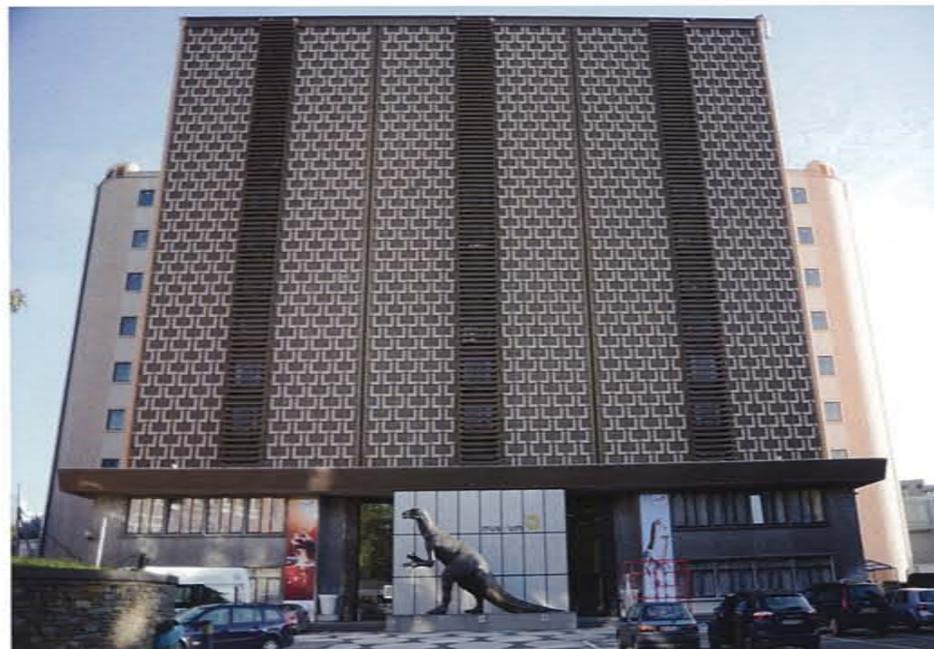
常設展示室に入ると最初に姿を現すのがこのイグアノドンの骨格群である。巨大なガラスケースの中に約10メートルの骨格が林立し、美しくライティングされている。この復元骨格の姿勢は、尾を地面に引きずる古い考え方に基づくもので、1800年代当時のイグアノドン研究の実際を反映している。

この巨大なガラスケースから、飛び出すような形で展示されているイグアノドンの骨格がある。この骨格は最近の考え方で復元されており、ガラスケース内の骨格と同じ動物に見えない姿勢をしている。この骨格が、古い姿勢で復元されている骨格群から飛び出すように設置してあるのだ。さらに尾の一部がガラスの壁を突き抜けており、細かい演出がなされている。恐らく、古い解釈の枠をこえて、新たな解釈が生まれることを意図しているのだろう。

組み立て骨格が並ぶ部分の地階には、炭鉱内の産状が展示されていて、炭鉱（地下）→復元（2階）という空間配置になっている。しかも地階の様子は上の階からガラス越しにのぞき込むことができ、「下にいってみたい」と思われる演出がなされている。

展示のデザインには、ガラスを多用した象徴的なものが目立っていた。骨格展示と産状展示の空間配置や、新しい復元姿勢の骨格がガラスを突き抜けていることなど、空間設計にも工夫が凝らされている。このように印象的に美しく見せることで、来館者を引きつけ、必要に応じて情報を探究できる構成になっている。

国内の博物館は、教科書的な「地球・生命史」から展示が始まる場合が多い。確かに、グローバルな話題からローカルな話題にフォーカスしていくストーリー展開は王道である。しかし、この博物館では、教科書的な展示を最初にもつくるのではなく、地域の特徴的な資料を最初に配置し、来館者を強烈に引きつけている。



ベルギー王立自然史博物館

一般的に、多くの博物館は自らが活動すべきローカルなフィールドを持っており、そのコレクションこそがその博物館の個性を象徴しているといつても過言ではない。当館の最大の個性も御船層群というフィールドに建つことにあり、利用者の多くも最前線での生きた情報を求めて来館していることを認識すべきだろう。

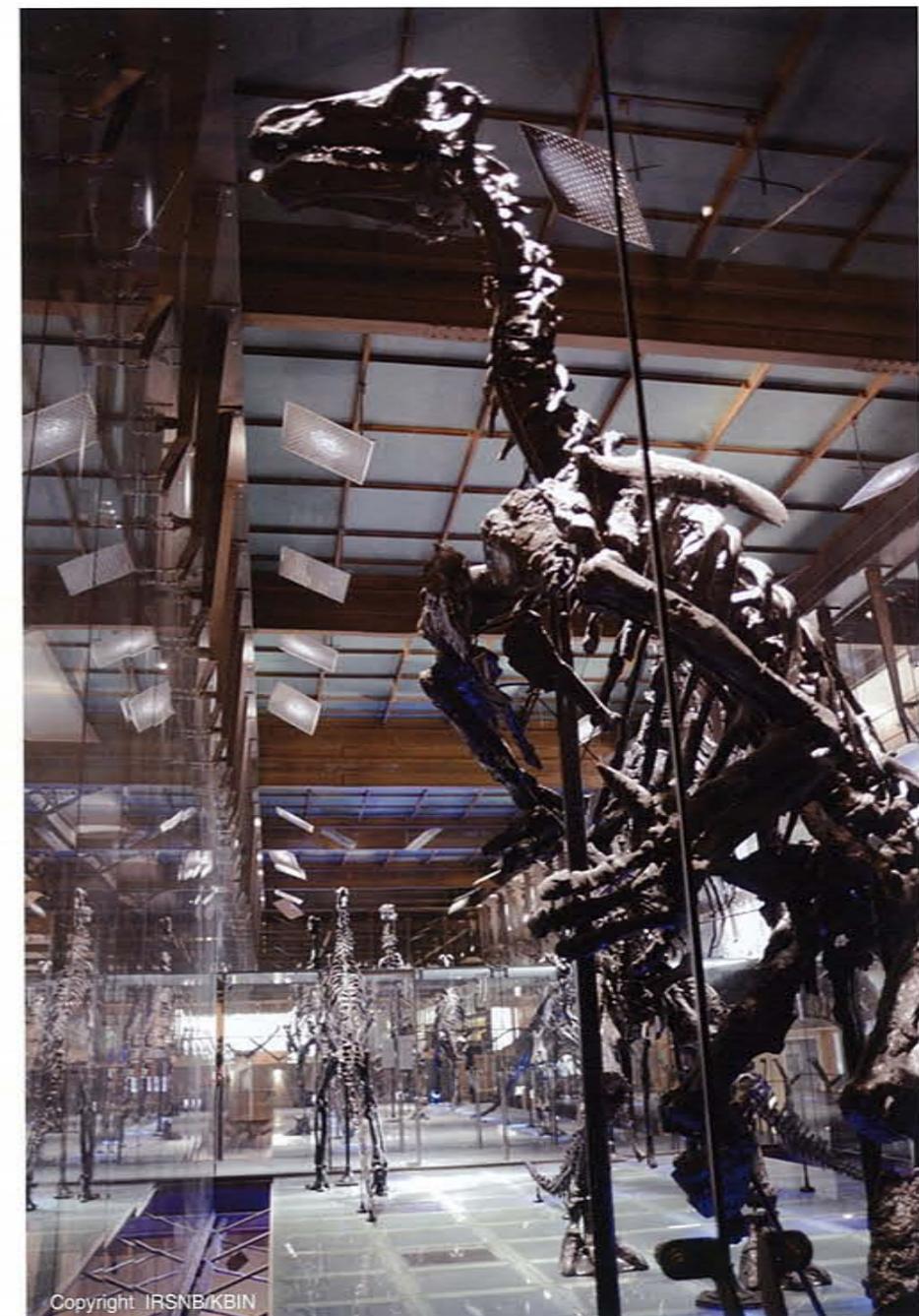
イグアノドン

ヨーロッパでは、1800年代の前半、絶滅した大型爬虫類の化石が科学的に報告されるようになってきた。イグアノドンの化石はイギリスで発見され、ギデオン・マンテルによって1825年に命名されている。当初は部分的な骨や歯だけしか見つかっておらず、想像された姿は、現在の復元とは全く異なるものだった。

イグアノドンは大型の草食恐竜で、成長した個体の全長は10メートルに達する。発見当初、イグアノドンの研究は部分的な化石に基づいていたため、分類も少し混乱していた。2004年に出版された恐竜学の教科書「The Dinosauria」を見ると、イグアノドン属には、初期に見つかった断片的なものもふくめて、6種が知られていたことがわかる。

最初のイグアノドン化石の発見から約50年後、ベルギーのベルニサール炭鉱でたくさんのイグアノドンの骨格が発見され、イグアノドン・ベルニサーテンシス (*Iguanodon bernissartensis*) と名付けられた。この時発掘された化石に基づき、骨格が組み立てられた。当時はカンガルーのような復元姿勢が採用されており、立った状態で骨格が組み立てられている（写真）。

ちょっと皮肉なことだが、イギリスで最初に発見されたイグアノドン化石は、現在ではイグアノドンという名前では呼ばれていない。マンテルがイグアノドンという属名を提唱した時に研究した標本に特徴がなく、後に命名される資格がないと判断されたためだ。後に、ベルギーで発見されたこの種 (*I. bernissartensis*) がイグアノドン属の基準となる種と定められたため、このベルギーのイグアノドンは、確実にイグアノドンという名前で呼ばれる唯一の恐竜として残すことになった。



Copyright IRSNB/KBIN

イグアノドンの骨格

モンタナ恐竜化石プレバレーションプロジェクトの経過

モンタナ産的巨大恐竜化石をクリーニング

2012年2月、アメリカ合衆国のモンタナ州立大学附属ロッキー博物館から石膏で被われた岩塊が届けられました。それは、長さ約2メートル、幅は約1メートル、重さにいたっては1.2トンにもおよぶ、とても大きく重い岩塊でした。写真1がその岩塊です。「おやっ、こんな塊に恐竜化石が入っているのか?」と不思議に思われた方も多いでしょう。そうなのです、皆さんよく知っている恐竜化石は、岩塊を削ることで取り出した物なのです。削る作業をクリーニングと呼びますが、それは少しずつ丁寧に、根気強く行う必要があります。熟練した技術を必要とします。私達は、ロッキー博物館のスタッフの方々の親切な技術指導をうけ、大きな岩塊の中からどのような恐竜化石が出てくるのかと期待に胸をふくらませながら、クリーニング作業を開始したのでした。



(写真1)

【あるアーチャーライターの日記】

2月: クリーニング始まる
作業を開始してまもなく、骨化石の一部が顔を出してきました。まだほとんどが岩塊の中ですが、色々なパートが少しずつ顔を出し始めました。

5~6月: 順調に進行中
頸椎骨(首の骨)の一部が顔を出し始め、他にも歯や歯の部分も見え始めました。分離している骨は位置関係を記録して取り除きました(写真2)。

7~8月: 全体像が見えてきた!
クリーニングが進み、ようやく恐竜化石の全容があらわになってきました。私達がクリーニングしているのは、どうやら首と尾の長い竜脚類と呼ばれる恐竜のようです。今回私達がクリーニングしているのは首の部分だけですが、ロッキー博物館に保管されている胴体や尾も含めると、全長は約20メートルになりそうです。石膏のカバーが邪魔になってきたので、電動カッターで切り取りました(写真3)。

9月: 仕上げが肝心
最後の仕上げを行いました。ロッキー博物館スタッフが来館し、化石の状態を確認。7ヶ月間の根気強い作業と我々のクリーニング技術の精度が高く評価されました。また、貴重な頭部の化石も含まれていたことがわかり、モンタナ州の恐竜研究の進展にも役立つことができました。

平成25年1月: 恐竜の帰還
再び、ロッキー博物館のスタッフが化石梱包作業の指導のため来館。削りだされた化石は運ばれてきた当初の状態よりも壊れやすくなっています。そのため、慎重に梱包する必要があります。化石が大きいため、梱包作業は、想像以上に大がかりなものとなりました。1月15日、寂しい気持ちもありましたが、最後には万感の思いを込めて、恐竜化石もモンタナへ送り出しました。

クリーニングを終えて…

作業を始めた当初は、白くて軟らかいモンタナの岩石と硬い御船の岩石との違いに驚き、岩石や化石に入った無数のヒビに悩みながら恐る恐る作業を進めていました。とにかく根気と集中力を要する作業でした。ただし、岩塊の中に隠れている化石が毎日少しずつ現れてくることは、何物にも代え難い楽しみでもありました。

このプロジェクトは我々、アーチャーライターの化石クリーニング技術の向上にとても役立ちました。今後はこの貴重な経験を手強い御船の化石クリーニングに活かし、恐竜化石の大発見につなげていきたいと思います。

恐竜博物館 の 教 育 活 動

御船町恐竜博物館では様々な教育・普及プログラムを実施しています。ここでは平成24年度に実施し、好評を得た3つの活動を紹介します。

パレオプログラム

パレオプログラムは、太古の生物や地層の成り立ちを楽しく学ぶプログラムです(対象:小学生以上)。様々なプログラムを用意していますので、興味に応じてご参加いただけます。平成24年度は10種類のプログラムを11回実施し、約400人の参加がありました。中でも「アンモナイト徹底解剖」と「みふね恐竜探偵」は新たに開始した人気のプログラムです。

アンモナイト徹底解剖

『謎が渦巻くアンモナイト。実は○○の仲間だった!』(2月17日実施、参加者16名)オウムガイの殻と比べたり、イカを解剖することで、アンモナイトの真の姿に迫りました。



みふね恐竜探偵

『探偵求ム。足跡化石カラ事件ヲ解明セヨ!』(12月9日と3月17日に実施)残された足跡から手掛かりを探し出し、事件現場を推理することで、みごとに謎を解き明かしました。

わくわく体験教室

化石や地層に親しみたいけどパレオプログラムはちょっとむずかしい、そんなキッズでも楽しむことができる体験教室として平成24年度から新たに実施しました(毎月第2土曜日の10時~12時)。平成24年度は2つの活動を実施し、約400人の参加がありました。平成25年度からは要望に応え活動内容をさらに充実させていく予定です。こうご期待!

紙粘土でアンモナイトを作ってみよう

本物の化石からとった型に紙粘土を押しあて、自分だけのアンモナイトのレプリカを作ります。いろんな色の不思議なアンモナイトを作ったり、オリジナルの顔を作る参加者もいました。



自分で作るティラノサウルス

恐竜の貼り絵を作ってみよう

和紙をちぎって、はって、自分だけのティラノサウルスを作る体験教室です。参加者の中には、他の恐竜も作ったり、クレヨンで火山を描く強者も!みんな個性溢れる貼り絵ができました。



パレオキャンプ

恐竜に囲まれて眠る、そんな貴重な体験が人気のパレオキャンプ。平成24年度は8月2日~3日に開催され、46名の参加者が集まりました。熊本博物館で開催された恐竜展の見学や、干潟の生き物の調査も行いました。夜はみんな熟睡でした。

